

2009年駿河湾の地震の余震分布 (3次元地震波速度構造とtomoDD法による)

東海地域の3次元地震波速度構造を用いて、余震の再決定をおこなった。
絶対走時データと、相対走時差データ(読み取り値に加えて波形相関法によるデータも加えた)を使用した。
使用した余震の発生期間:2009/08/11 - 08/18

地震研で読み取った余震: 209個

気象庁一元化处理震源: 474個

【結果】

- 本震の震源付近では、南側に高角(約50度)に傾斜した余震面を示す。
- 余震域の北西部では、東北東に低角(約35度)に傾斜した余震面を示す。

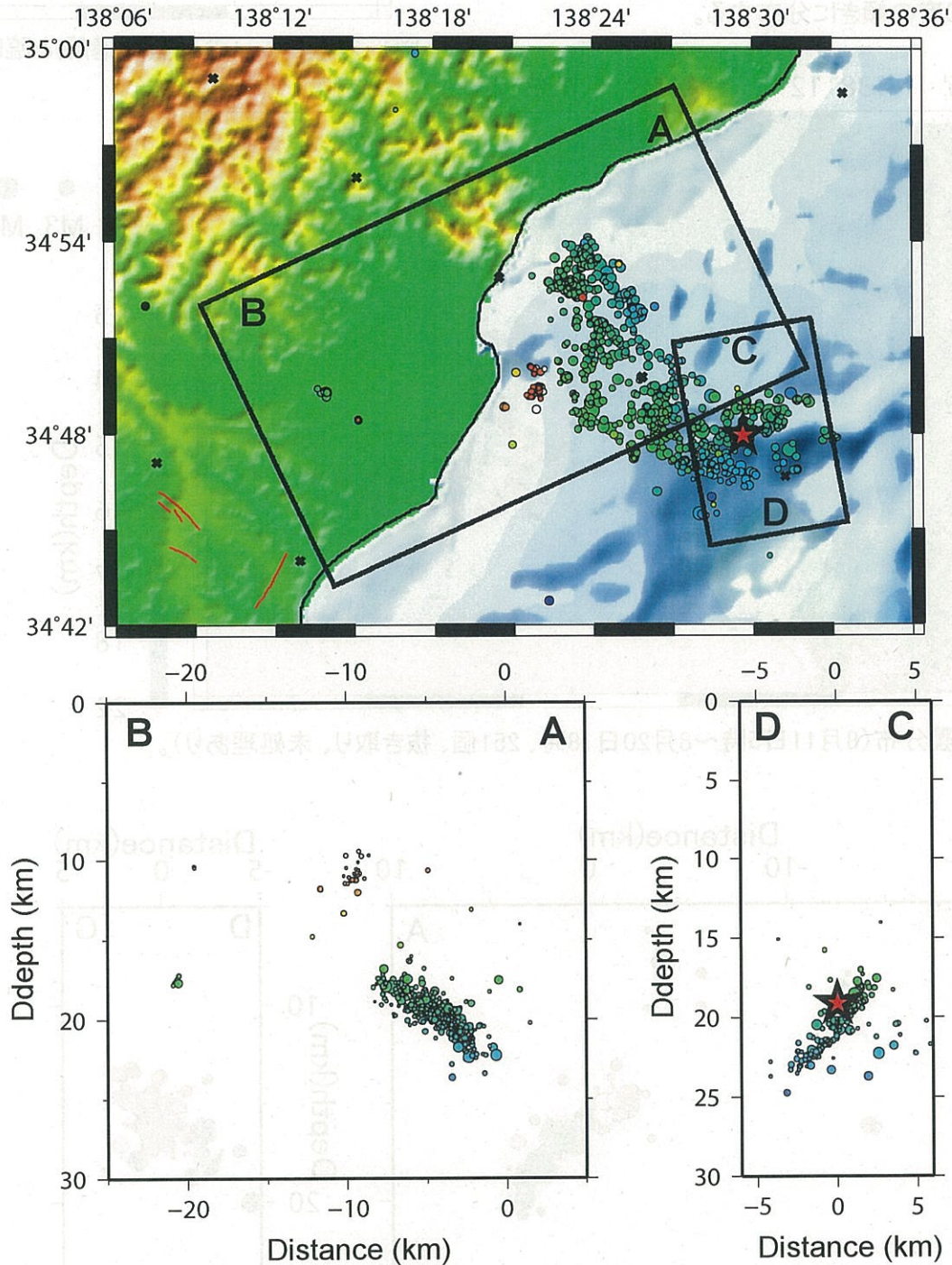


図5. 余震の震央分布図、深度断面図を示す。赤い☆印は、本震の震源を表す。